

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		23年度	24年度	25年度	増減(25-24)
正味財産の状況	基本財産運用益	15	37	31	△ 6
	受取会費・受取寄付金				0
	受託事業収益	2,372,892	2,434,386	2,420,444	△ 13,942
	自主事業収益	2,197	1,247	4,663	3,416
	受取補助金等	209	227	22	△ 205
	その他の収益	77	58	67	9
	経常収入 計	2,375,390	2,435,955	2,425,227	△ 10,728
	事業費	2,373,382	2,442,102	2,420,640	△ 21,462
	うち人件費	174,644	181,024	168,950	△ 12,074
	管理費	2,259	2,618	2,383	△ 235
	うち人件費	2,119	2,526	2,310	△ 216
	経常支出 計	2,375,641	2,444,720	2,423,023	△ 21,697
	当期経常増減額	△ 251	△ 8,765	2,204	10,969
	経常外収入	0	0	0	0
	経常外支出	0	54	0	△ 54
	当期経常外増減額	0	△ 54	0	54
	当期一般正味財産増減額	△ 251	△ 8,819	2,204	11,023
当期指定正味財産増減額	△ 209	△ 226	△ 22		
正味財産期末残高	126,583	117,537	119,719	2,182	

(単位:千円)

項 目		23年度	24年度	25年度	増減(25-24)
財務状況	流動資産	362,942	400,515	393,085	△ 7,430
	固定資産	243,706	244,960	260,016	15,056
	資産 計	606,648	645,475	653,101	7,626
	流動負債	310,780	357,095	351,632	△ 5,463
	うち短期借入金	0	0	0	0
	固定負債	169,284	170,843	181,750	10,907
	うち長期借入金	0	0	0	0
	負債 計	480,064	527,938	533,382	5,444
	正味財産	126,584	117,537	119,719	2,182
	うち基本財産への充当額	74,000	74,000	74,000	0
うち特定資産への充当額	16,009	13,832	7,947	△ 5,885	

(単位:千円)

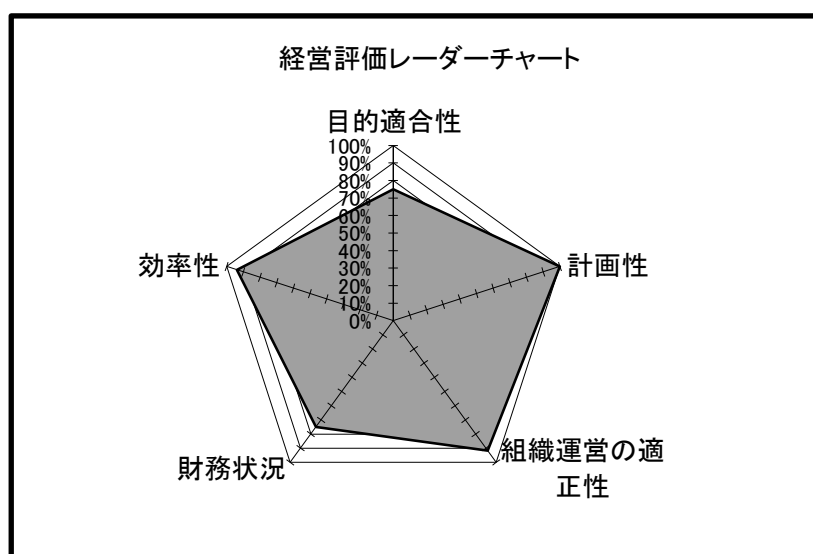
項 目		23年度	24年度	25年度	増減(25-24)
県の財政的関与の状況	負担金				0
	人件費(派遣法)補助金				0
	人件費(派遣法以外)補助金				0
	人件費以外の補助金				0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金				0
	補助金 計	0	0	0	0
	人件費(派遣法)委託金	0	0	0	0
	人件費(派遣法以外)委託金	184,123	178,426	159,757	△ 18,669
	人件費以外の委託金	2,182,186	2,248,974	2,253,475	4,501
	委託金 計	2,366,309	2,427,400	2,413,232	△ 14,168
	県支出金 計	2,366,309	2,427,400	2,413,232	△ 14,168
	県の財政的関与の割合(%)	99.6	99.6	99.5	△ 0
県貸付金残高				0	
県債務負担実際残高				0	

【県の財政的関与の内容・目的・金額】

項目	内容・目的・金額
負担金	
補助金 (運営費)	
補助金 (事業費)	
委託金	富士北麓、峡東、釜無川及び桂川流域下水道の管理運営を円滑に行うため(金額2,413,232,528)
債務負担行為	

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	12	9	75.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	12	12	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	3	12	11	91.7%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	56	42	75.0%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	4	16	15	93.8%
合計		20	108	89	82.4%



【警戒指標】

--

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	出資法人として県及び関係団体と密接な連携を図りながら、高い専門技術を用いて流域下水道の良好且つ効率的な維持管理を実現すると共に、下水道技術の調査研究や下水道知識の普及啓発等を積極的に実施し、県下の下水道行政の推進に大きく寄与している。
計画性	事業運営の合理化計画、流域下水道の財政計画等により業務を遂行し、経営計画の策定によりそれに沿った実施に取り組んでいる。また、職員の育成にあたっては高度な技術職員の能力開発・育成を積極的に行っている。
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の業務管理に関しても、県と密接な連携による執行体制を執っている組織である。また、活動内容の情報公開を積極的に行い、組織機能を十分発揮できる体制となっている。
財務状況	財務状況は大部分が県からの維持管理委託料であり、その財源は構成市町村の負担金で賄われていることから精算方式を執っているため、収益を残さない会計処理となっている。
効率性	維持管理事業は、適正な規模の組織体制により必要最小限の人員を配置し円滑に運営を行うと共に、コスト削減を行い経費を抑制し執行している。
総合的評価	当会社の財務状況は、大部分を占める維持管理委託料が精算方式を執っているため収益は残らない状況にあるが、経費の更なる削減に努める必要がある。また、自主事業は年度により増減があるものの、事業目的に合致した中で適切に実施している。



対応策	概ね健全な財政状況の業務執行であるが、包括的民間委託の試行導入及び更なるコスト削減により経費の抑制に務める。また、経営計画に定めた施策を検証しながら事業を推進していくと共に、職員の意識改革及び下水道技術の向上のため研修事業を継続し、職員の育成に取り組んでいく。
-----	--

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	県及び関係市町村と密接に連携を図りながら、高い専門技術を用いて、流域下水道の維持管理を効果的かつ効率的に実施すると共に、下水道技術の調査研究や下水道の普及啓発活動を積極的に実施し、公社の設立目的あるいは公益目的に合致した業務を行っている。
計画性	平成24年度に、経営の健全化を目的とした平成25年度から3箇年の「経営計画」を策定するなど、計画的な事業運営に取り組んでいる。
組織運営の適正性	各職員の自主性・創造性を引き出す体制や業務の遂行状況をチェックできる体制を整備している。また 事業活動等に関する情報を広く公開するなかで、個人情報等の流出に留意した管理を徹底するなど、組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備・運用されている。
財務状況	下水道公社は、流域下水道の維持管理を主な業務として設立された法人であり、県からの業務委託による維持管理費については精算し収益を残さない仕組みとなっている。また、役員2名の退職に伴い2名分の賞与引当金を計上する必要がなくなったこと等により、当期経常増減額はプラスとなっており、出資法人の経営状況は、健全である。
効率性	包括的民間委託方式を、平成22年度から峡東Ⅰ期、平成24年度から富士北麓、釜無川、平成25年度から峡東Ⅱ期、及び桂川清流センターに試行導入し、コスト縮減に積極的に取り組んでいる。また、公社職員の効率的な配置による職員数の見直しなどでの人件費抑制も行っており、効率性は概ね確保されている。
総合的評価	山梨県下水道公社は、県及び関係市町村と連携を図りながら、その設立目的に合致した業務を行っている。主たる業務である流域下水道施設の適切な維持管理、計画的な事業運営、適正な組織運営を実施している。経営状況の健全性は総じて確保されており、平成24年度に策定した経営計画(H25-H27)に基づき、新公益法人会計基準へ移行し、さらなる経営効率化に取り組むこととしている。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営検討委員会による総合評価)

総合的所見	<div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>A</p> <p>得点率 80%以上 かつ 警戒指標なし</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>B</p> <p>得点率 70%～80% または 警戒指標が1</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>C</p> <p>得点率 60%～70% または 警戒指標が2</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 20%;"> <p>D</p> <p>得点率 60%未満 または 警戒指標が3以上</p> </div> </div>
	<p>※ランク下の%は得点率の範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内4流域下水道の維持管理を県から受託しており、職員の効率的な配置による人件費抑制や効率的な事業執行など、コスト縮減に積極的に取り組んでいる。 ・ 平成25年度については、役員の退職に伴い賞与引当金の計上額が削減されたことなどにより、経常収支は黒字となった。 ・ 今後も、経営計画に基づき、経費の節減等経営の合理化を推進するとともに、適切な維持管理、普及啓発事業を行っていくことが求められる。



【総合所見等に対する今後の対応方針】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内4流域下水道の維持管理については、年数の経過とともに設備老朽化による故障修繕や予防保全に要する費用が拡大しつつある。そのため、平成22年度より試行実施してきた包括的民間委託について、富士北麓、釜無川については平成27年度から、峡東については平成28年度から順次本格実施していくことにより、社会情勢に的確に対応した管理や、維持管理の質を確保した上での維持管理負担金の低減に努めていく。 ・ 更に、運営管理の基本となる経営計画に沿って効率的な運営を行うとともに、下水道の調査研究、下水道知識の普及啓発、下水道排水設備工事責任技術者認定等を継続して計画的に行っていく。
--